FOG-Q 臨床記録ノート

6項目FOG-Qの得点と、生活場面を記録する

氏名／ID：_____ 評価日：_____ 評価者：_____
疾患・罹病期間：_____ 年齢：____歳 回答者：_____

01｜使用した票と面接条件

正式票の版／入手元：_____
回答した期間：_____ 面接時：☐ ON ☐ OFF ☐ 不明
服薬時刻：____:____ 面接時刻：____:____ 説明・実演：_____
家族同席：有・無 本人の回答と補足情報の区別：_____

02｜正式票で得た点数を転記（質問文・選択肢は原票を使用）

項目／領域の要約	点数	回答の補足・具体的な経験
1 歩行の状態	/ 4	
2 歩行困難と日常生活	/ 4	
3 すくみの頻度	/ 4	
4 最長のすくみの持続	/ 4	
5 歩行開始時のすくみ	/ 4	
6 方向転換時のすくみ	/ 4	

合計：_____ / 24点 ☐ 全項目回答 ☐ 未回答あり（項目：_____）
所要時間：____分 未回答・解釈が難しかった理由：_____

03｜点数とは別に残す生活情報

本人が最も困る場面：_____

_____

家族が見た場面（本人の回答と分けて記録）：_____

_____

未回答を0点で埋めない。FOG-QとNFOG-Qの点数を混ぜない。
面接がONでも、その場の歩き方だけで回答しない。期間は正式票に従う。
日本語版の検証論文：Sakai et al. 2025（2024先行公開）PMID:38813872

FOG-Q 臨床記録ノート

場面・服薬・手がかりをつなぎ、次回の変化を確かめる

氏名／ID：_____ 前回：____点 今回：____点
変化量（今回−前回）：____点 同じ版・条件：☐ はい ☐ 相違あり
相違点：_____

04｜すくんだ場面を具体化する（任意の臨床メモ）

日時：_____ 服薬から：____分 状態：☐ ON ☐ OFF ☐ 不明
場所・動作：☐ 開始 ☐ 回転 ☐ 出入口 ☐ 到着直前 ☐ その他_____
直前にしていたこと／急ぎ・会話・荷物：_____
足の様子・持続の目安・必要だった介助：_____
本人の困りごと／不安：_____
転倒・つまずきの有無：_____

05｜一つずつ試し、生活で使えるかを確かめる

試した手がかり・環境調整：_____
_____
使ったときの反応／不都合：_____
_____
家族と共有する対応・主治医への情報：_____
次回の生活目標：_____
再評価予定：_____ そろえる条件：_____

06｜数値を解釈するときの確認

☐ 点数が下がった理由が「歩く機会の減少」だけになっていない。
☐ FOG-Qの合計点を転倒確率や屋外歩行の合否へ置き換えていない。
☐ 一致限界・MDC・MCIDを区別し、他尺度の変化量を流用していない。
☐ 本人の生活経験と、その場の歩行観察の両方を確認した。

日本語版FOG-Q：一致限界−4.9〜3.2点（35名）。MCIDそのものではない。
NFOG-QのMDC 9.95点、観察式FOG scoreの改善3点は別尺度の研究値。
この票は正式な質問票・採点基準の代わりには使いません。

日本語版FOG-Q：Sakai et al.｜PMID:38813872
NFOG-Q測定誤差：Hulzinga et al.｜PMID:32071940
外的手がかり：APTA Parkinson病ガイドライン 2022
FOG-Q原著者・権利情報：ePROVIDE